

# 令和6年度 仙台市立宮城野中学校の教育目標等

(学校経営の方針)

たくましく、しなやかに自立する生徒の育成を第一に考え、教職員がやりがいを感じながら協働するとともに、保護者や地域、小学校等との連携を積極的に図る。

## 1 教育目標

社会の中で、相手を理解し、主体的に考え判断し行動する生徒の育成

## 2 重点的に育成を目指す資質・能力

変化の激しい社会を生きるために必要な「生きる力」

- (1) 【しなやかさ】「他者理解・協働」
- (2) 【自立】「主体的な学び」
- (3) 【たくましさ】「課題設定・課題解決」

○9年間で育てたい児童生徒像（小中連携）

「異なる個性を認め合い、なりたい自分に向かって努力し続け、社会や人のために役に立とうとする児童・生徒」

## 3 本年度の重点目標

- (1) 「他者理解・協働」：多様性を理解し受け止め、他者と関わる力の育成
- (2) 「主体的な学び」：興味関心をもち、主体的に学ぶ力の育成
- (3) 「課題設定・課題解決」：自ら課題を設定し、見通しを立てて解決する力の育成

## 4 具体の取組

- (1) 「他者理解・協働」：多様性を理解し受け止め、他者と関わる力の育成
  - ① 道徳科の授業の充実
    - (ア) 学年担当による道徳授業の実践
      - ・ 学年4クラス2グループでの6～7名によるローテーションでの授業
    - (イ) 1学年の道徳授業、ステーションでのp4c活動の実践(宮教大との連携・研修)
  - ② 自分づくり教育の充実
    - (ア) 職場体験や校外学習等で地域や社会資源(人材、教材)を活用した学習の推進
    - (イ) 小中連携による豊かな学びの推進
  - ③ 生徒会活動等の充実
    - (ア) 目的や目標の見える化
    - (イ) 話し合い・決定する場の設定
    - (ウ) ボランティア活動の推進
  - ④ 生徒指導・不登校生徒支援への組織的な対応

- (ア) 早期対応の徹底（報告・相談・検討・対応・確認）
  - (イ) 対策委員会での対応策の検討
  - (ウ) 「学校適応感アセス」に関する職員研修①の実施
  - (エ) 生徒理解に関する職員研修②の実施
- (2) 「主体的な学び」：興味関心をもち、主体的に学ぶ力の育成
- ① 主体的で対話的な学びの授業の実践
    - (ア) グループ学習に関する職員研修③の実施
    - (イ) 学び合いによる授業実践の推進
      - ペアによる授業参観
      - 4 学年職員による授業参観
  - ② 「聞く」・「伝える」力を育てる授業の実践
  - ③ 生徒会や学年ごとの活動の充実
    - (ア) 「目的と責任」をもたせる取組
  - ④ 萩の名どころタイムの効果的な活用
    - (ア) 金曜 4 時間授業の計画的な活用
- (3) 「課題設定・課題解決」：自ら課題を設定し、見通しを立てて解決する力の育成
- ① 課題設定や見通しを立てる授業の実践
    - －問題解決過程においての主体的になる「すべ」－
    - (ア) 問題の見だし…違いを見つける
    - (イ) 見通しの発想…既習との関係づけ
    - (ウ) 解決方法の発想…既習との関係づけ
    - (エ) 実行結果の整理…問題や見通しとの関係づけ
    - (オ) 振り返り…実行結果を問題や見通しなどの他の過程の関係で整理
  - ② 課題解決型授業の実践
    - (ア) 知識・技能の習得（繰り返し学習の工夫）
    - (イ) 思考力・判断力の育成（比較、関係づけ・目的意識への戻り）
    - (ウ) 表現力の育成（表現内容の獲得・的確な表出）
  - ③ ICT 等を活用した多様な学びの授業実践
    - (ア) 「ICT の研修」から「ICT で研修」へ
    - (イ) 量から質へ、教師から生徒へ
    - (ウ) ICT 環境整備と実践内容の職員共有化
- (4) 自己有用感の醸成
- （協働型学校評価目標）「生活状況調査により『自分は人の役に立っている』と感じられる生徒の割合を 70%以上にする。」
- ① 学校
    - (ア) 校種間の円滑な接続を図る小中連携（「チーム宮城野原」）

- (イ) 地域ボランティア活動の積極的な参加（地域貢献、地域の一員の自覚）
- (ウ) 自助・共助による防災対応力の指導、地域貢献に向けた人材育成
- (エ) 少年消防隊の活動の推進、救急救命講習（生徒・教師）の計画的な実施
- (オ) 地域防災リーダーや関係機関との連携を踏まえ、顔の見える関係の構築

② 家庭

- (ア) 子どもの自己肯定感を高める日常的な関わり
- (イ) 活動に対する賞賛と励まし
- (ウ) 職業学習を介した親子の対話（体験談）

③ 地域

- (ア) 小中学生への積極的なあいさつ
- (イ) ボランティア活動へ参加した生徒への声かけ
- (ウ) 慈善活動を行った生徒への賞賛（社会を明るくする運動等）